

## 2005～2006年スポーツ開発レポートに基づくドイツにおける スポーツクラブ・モニタリングシステム

クリストフ・ブリューワ

ドイツ：ケルン体育大学 教授

### 要 約

本研究では、ドイツ16州における非営利スポーツクラブの発展状況を評価する。この全国的調査からは多くの研究結果が得られ、ドイツ国民にスポーツ機会を提供する非営利スポーツクラブの現時点での重要性だけでなく、こうしたクラブが経済的障害を克服するために取り組んできた対策などが明らかになった。さらに、スポーツインフラの大部分は、非営利スポーツクラブによって提供されていることが判明している。また、非営利スポーツクラブが従来の役割だけにとどまらず、ドイツ国民の健康促進に極めて大きく貢献していることも重要な事実といえる。従って、非営利スポーツクラブの公益性は極めて高いことになり、学校や幼稚園、健康保険組合、青少年福祉センターといった多くの公共機関とも提携していることが認められた。そのうえ、依然として財政問題（ボランティア職員や会員、トップレベルの青少年アスリートを勧誘/確保する難しさも原因に挙げられる）が存在することも判明し、中にはスポーツクラブ自体の存続が危ぶまれているケースさえ見受けられた。本研究では、これらの問題の理由と原因、スポーツクラブが採る対策を提示すると共に、人口動態がスポーツクラブに与える影響の度合、非営利スポーツクラブがその影響を過小評価することの危険性を明らかにする。その後は各自治体に提唱する活動を示した上で、ドイツにおける非営利スポーツクラブの重要性を再度強調し、スポーツ団体の支援強化を促す。具体的な支援策としては、直接助成金や税制優遇措置、公共スポーツ施設の優遇使用などが有効である。また最終項では、スポーツ団体に提唱する活動を述べ、ドイツ・オリンピック・スポーツ連盟がコンサルタント及び支援サービスをどのように最適化すべきかという方法論を示す。これを実現するには、スポーツクラブへの的確なアドバイスとなるこれまでの知識を活用すべきである。